

日時 平成29年3月24日（金）午後1時30分～3時30分
会場 小平市健康福祉事務センター2階 第3・4会議室
出席者 認知症疾患医療センター医師、認知症疾患医療センター看護師、民生委員児童委員、市民、
居宅介護支援事業所、認知症家族支援会、生活支援体制整備事業協議会、地域包括支援センター、高齢者支援課

1 テーマ

「お隣さんが認知症になったら～認知症を地域で支えるために。『排除』しない地域づくり～」

平成28年度に各地域包括支援センターで開催した地域ケア会議の中で「見守り」「認知症」の課題が多かった。

そこから、抽出された課題に対して地域での支援方法や小平市においてどのような取組みが出来るのか、また小平市の地域課題について共通認識を持つことにより、ネットワーク構築等を検討していく会議とした。

2 内容・意見

【認知症疾患医療センター医師】

- 近年、認知症や脳梗塞が高齢になってから発症するケースが増えてきている。以前は、高齢で発症しなかった病気が、最近では高齢になってから発症が見られる例がある。
- 病院側として困っていることは、地域や家庭での生活を捉えることが難しい患者が来られた時である。日常生活を何うために地域や家庭と病院間の情報伝達システム等があればと感じる。

【認知症疾患医療センター看護師】

- 認知症疾患医療センターでは、受診する際、診察時間の短縮のために紹介状の持参を依頼している。しかし、必ずしも紹介状がなければ受診できない訳ではない。気軽に電話相談をしてほしい。
- 認知症と思い込み、受診した結果、脳腫瘍やうつ等の場合もある。診断後の治療をスムーズに行っていただくために、なるべく早い段階で相談してほしい。

【民生委員児童委員】

- 以前に認知症サポーター養成講座フォローアップ講座を受講したことがある。最近、民生委員児童委員の入れ替わりがあったので、再度、受講を促していきたい。認知症を正しく知り、理解する必要がある。地域には、認知症サポーター養成講座の例にある症状より更に重度の方もいると感じている。
- 地域で暮らしていて、お互いに心配し合うようになってきていると感じる。最近では、高齢者が増え、「明日は我が身」という機運が出てきているように感じる。

【居宅介護支援事業所】

- 近隣住民の理解が得られることで、認知症の方はより地域で生活しやすくなると思う。
- ゴミ出しや地域の清掃等、少しずつ近隣住民が見守り合うことで早期発見や早期受診につながっていく。

【市民】

- 店舗側は、お客様が健常の方であっても認知症の方であっても、お客様であることに変わりない。認知症の方は一見して分からない。店舗側と行政や地域包括支援センターと連携を取れるようにして、おかしいと感じた際は相談していきたい。
- 以前、受講した認知症サポーター養成講座では、受講者同士が認知症の方への声のかけ方を学ぶためにロールプレイがあった。話しかける体験が大切だと感じた。
- 団地内にアルツハイマー型認知症の方が住んでいる。歌を唄うことが好きな人だったため、団地の集会室などで歌を披露してもらったことがあった。認知症の方に対する怖いというイメージを払拭することが大切だと考える。

【家族会】

- 認知症の方は、一見普通にしているようでも、聞き耳を立てていたり、自分がどう思われているのかを大変気にしている。そのため、受診に付き添う家族等から医師に認知症の方の身体状況を配慮しながら伝え、情報を共有することが重要である。
- 以前、参加した認知症サポーター養成講座では、薬剤師やケアマネジャー等の支援者もいた。様々な人が何度も認知症サポーター養成講座を受講してもらいたいと思う。

【生活支援体制整備事業協議会】

- 認知症の方の対応について実地体験として徘徊模擬訓練を取り入れている自治体が増えてきている。徘徊模擬訓練を実施することで、その様子を見ていた市民が、認知症について興味を持ってくれると思う。
- 今まで支援を受ける側であった方が何かをきっかけに支援する側にまわることがあり、地域がつながることが広がってきていると感じる。

【全体】

- 認知症の方が地域で生活するためには、地域での支えがとても大切である。さらに家庭や地域と病院等の連携を強化することによりスムーズに支援につながっていくと考えられる。
- 地域住民には、認知症の正しい理解が求められる。そのために認知症に対する周知を今後も行っていくことが必要である。

3 今後の取組みの課題

今回の基幹型地域ケア会議は、認知症の方を地域でどう支えるかについて情報・意見交換を実施した。近年では、認知症の方がその人らしく生活を送るために地域に住まいを移すことが増えてきた。しかし、地域住民への啓発が十分になされていないことから、理解が得られていない状況にある。そのため、地域住民が認知症に興味を持ち、正しい接し方や理解を得てもらうことが重要である。その機会として、徘徊模擬訓練の実施や認知症サポーター養成講座の内容の見直しを検討していきたい。なお、認知症サポーター養成講座を受講した方が地域で活躍出来るよう支援するために認知症サポーター養成講座フォローアップ講座も企画していきたい。

また、認知症疑いの方や認知症の方が適切な治療を受けてもらうために、地域や家庭と病院の連携が重要である。そのため、情報伝達システムの構築や情報共有のルール化等を検討していきたい。

今後も地域包括ケアシステム構築のために、引き続き地域ケア会議を行っていくことが重要であると考ええる。